

● 授業科目の
内容紹介

教職に関する科目

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教師論	2		日英音	1	小長井邦男

I 主題

この授業では、教職の意義、役割、職務内容などを学び、教師を目指す者としての資質を身につける。

II 授業の到達目標

- 義務教育の使命を認識し、教師としての使命を自覚できる。
- 教師の職務内容を知り、研究と修養の必要性を理解できる。
- 教師に必要な同僚性を認識し、自らの人間性を高めることができる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種を取得するための必修科目である。

項目	内容
1. 私の心の中の教師	教師として目指す姿の具体
2. 教師の仕事①	優れた教師の条件
3. 教師の仕事②	校務分掌 法的な根拠
4. 教師の一日、一週間、一年	日課表、週課表、年間指導計画
5. 学級担任の仕事①	授業と学級事務
6. 学級担任の仕事②	多様な事務内容
7. 学習指導①	学習指導要領
8. 学習指導②	学習指導案
9. 学習指導③	子どもの表れと板書
10. 生徒指導①	生徒指導の意義
11. 生徒指導②	問題行動への対応
12. 教職員の身分	公務員 県費負担教職員
13. 教職員の服務	職務上の義務 身分上の義務
14. 職員会議と研修	教育公務員特例法 学校管理規則
15. 教師への道	採用試験

V 使用テキスト・教材等

教職の意義と職務 改訂版 森秀夫著 学芸図書株式会社

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 學習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
義務教育の使命、教師の使命の理解	○	○		○	
教師の仕事の理解	○	○		○	
教職員の身分や職務内容の理解	○	○		○	
求められる教師の資質の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育学概論	2		日英音	1	小長井邦男

I 主題

この授業では、教育の目的、理念、方法及び制度などを学び、学校教育の基本的な考え方を身に付け、教育的資質を高める。

II 授業の到達目標

1. 教育の目的、理念を理解できる。
2. 学校教育の方法や制度を理解できる。
3. 現代課題である「開かれた学校」「生きる力の育成」などを理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種などを取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 教育の目的・理念	教育基本法 義務教育
2. 学ぶということ	学問のススメ 建学の精神
3. 学習指導要領	法的根拠
4. 「生きる力」のイメージ	「学力」「心」「体」の総合力
5. 「生きる力」と学校教育	「学力」だけに特化しない学校
6. 「生きる力」をはぐくむ学級経営	学級目標 教室環境
7. 子どものよさを伸ばす生徒指導	人間尊重 カウンセリングマインド
8. 「確かな学力」と教科指導	指導と支援 学習指導案
9. 「豊かな心」と道徳教育	道徳教育の重要性
10. 「社会性」と特別活動	特別活動の内容
11. 「総合的な学習」のねらい	「生きる力」との関係
12. いろいろな教育評価	教育評価のねらい=指導に生かす
13. 学校制度と教育行政	日本の学校制度
14. 家庭や地域社会と学校	様々な連携組織
15. 特別支援教育	障害のある子どもへの教育

V 使用テキスト・教材等

教育原理 教師養成研究会 学芸図書株式会社

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
教育の目的、理念などの理解	○	○		○	
学校教育の概観の理解	○	○		○	
学校制度、教育行政の理解	○	○		○	
現代の教育課題の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育心理学	2		日英音	1	金子泰之

I 主題

教育心理学の基本的知識を獲得する

II 授業の到達目標

1. 教育現場で起きている子どもに関する問題の実態を具体的なテーマから理解する。
2. 発達、学習、集団、適応、評価、の5つ領域から教育心理学を理解する。
3. いじめ、虐待、発達障害、問題行動などから中学生の発達的特徴を具体的に理解する。

III 授業の概要

学校現場に関する問題を通して中学生の発達的特徴と発達に応じた支援方法を学ぶ。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 教育心理学とは	教育心理学を概観する
2. いじめ（1）	いじめの加害と被害
3. いじめ（2）	いじめの構造
4. いじめ（3）	いじめっ子の特徴
5. いじめ（4）	集団の中で起きるいじめ
6. 虐待（1）	虐待の実態
7. 虐待（2）	学校における虐待への対応
8. 虐待（3）	虐待を受けた子への支援
9. 問題行動（1）	中学生の問題行動の実態
10. 問題行動（2）	中学生の問題行動の原因
11. 問題行動（3）	生徒指導と問題行動
12. 発達障害（1）	代表的な発達障害
13. 発達障害（2）	発達障害を持つ子の世界
14. 発達障害（3）	発達障害への対応と支援
15. まとめ	授業のまとめ

V 使用テキスト・教材等

授業中に資料を配布する。

VI 参考書・参考資料

必要に応じて授業中に参考書を案内する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	40		30	30	
教育心理に関する知識の理解	○				
中学生の発達的特徴の理解	○		○	○	
中学生への支援方法の理解	○		○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

教育に関する記事やニュースに目を通しておくこと

授業で配布した資料を読み返し、復習しておくこと

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

実習には意欲的に参加すること。意見を求められたら積極的に発言すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
国語科教育法	2		日	1・2	平井修成

I 主題

中学校における国語教育の理論と実際を学ぶ。

II 授業の到達目標

- 「中学校学習指導要領」を十分に理解する。
- 教材を教授する基盤となる読解力や知識を身に付ける
- 教材を教授する技術・指導力を涵養する。

III 授業の概要

教壇に立つ能力を身に付けることを目標に、主として実践的授業体験を蓄積する。

IV 授業計画と内容

項目

1～3. 国語科教育の現在
4～5. 教職資格(中学校国語)取得
まで

6～8. 指導案の書き方

9～13. 模擬授業(各自30分)

14～23. 模擬授業(各自50分)

24～26. 指導案検討

27～28. 教育実習反省会準備

29～30. 読解力等向上演習

V 使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。

VI 参考書・参考資料

適宜指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法		試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
	配点比率(%)	合計 100					
教材研究への努力					○	○	
教材の読解能力					○	○	
授業能力					○	○	○

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

年度末に行われる特別補講等、様々なイベントに積極的に参加すること。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

教職指導センター(1号館3F)を大いに活用して欲しい。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語科教育法	2		英	1・2	永倉由里

I 主題

教師を目指す強い意志を持った学生を対象とし、英語教育の理念、理論および実践的な教授法を学ぶことにより、教育実習・採用試験に対応できる力を養う。

II 授業の到達目標

1. 英語教育に関する理念・理論を理解する。
2. 言語習得に関する理論と教授法を理解する。
3. 1,2 を応用して教育実習に対応できる授業力を身につける。

III 授業の概要

本授業は、1年次後期より2年次前期までを通年科目として開講される。前半は英語教育に関する理論を、後半は教育実習に向けての実践指導法を中心に学んでいく。

IV 授業計画と内容

1年次後期 項目

- 1 英語教育の目的
- 2 英語の指導目標
- 3 英語教育の環境的要因
- 4 学習者の要因
- 5 教師の役割と良い教師の条件
- 6 言語習得の理論上の諸問題
- 7 発音の指導
- 8 文字と綴り字の指導
- 9 語彙の指導
- 10 文法の指導
- 11 リスニングの指導
- 12 スピーキングの指導
- 13 リーディングの指導
- 14 ライティングの指導
- 15 オーラルコミュニケーションの指導

2年次前期 項目

- 16 英語指導の原理
- 17 教材研究と授業の準備
- 18 教室英語
- 19 授業案の作成と授業の進め方
- 20 テストと評価
- 21 教育実習事前準備指導
- 22 教育実習または模擬授業
- 23 教育実習または模擬授業
- 24 教育実習の反省
- 25 教育機器の活用
- 26 ネイティブスピーカーの活用
- 27 教員採用試験対策
- 28 教員採用試験対策
- 29 教員採用試験対策
- 30 まとめ

V 使用テキスト・教材等

『新英語科教育法入門』研究社 ②中学英語教科書『Total English 2』学校図書

VI 参考書・参考資料

『中学校学習指導要領 解説—外国語編—』文部科学省著 東京書籍

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 學習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100		40	40	20	
英語教育の理念・理論の理解		○	○	○	
言語習得理論と教授法の理解		○	○	○	
授業案作成と授業力			○	○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

- ①模範授業DVD視聴+ミニレポート(10回)、②英語教育に関する諸問題についてのミニレポート(10回)、③模擬授業の指導案作成とリハーサルなど。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

中学教育実習に見合うだけの英語力を有する者に限る。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
音楽科教育法	2		音	1・2	井上幸子

I 主題

この授業は中学校教諭二種「音楽」免許取得のための必修科目である。

II 授業の到達目標

- 指導要領を通して音楽教育について学び、音楽科教員としての基礎知識と技術を習得する。
- 教員に求められる基礎力(人前で話す力、自分の考えを持つ力、時間を組み立てる力、文書作成力、行事を運営する力など)を身につける。
- 教育現場のみならず、社会に適応できる基礎力を身につける。

III 授業の概要

この授業は、教員による講義、学生による模擬授業、模擬授業に対する学生同志のフィードバック(グループディスカッション)で構成される

IV 授業計画と内容

項目・内容

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1. 教職課程履修上の心得・音楽教育略史 | 16. 授業実践①「青年期の発達特性・教材研究の視点」 |
| 2. これからの中等科音楽・音楽科の課題 | 17. 授業実践②「歌唱」 |
| 3. 学習指導要領解説①「目標」 | 18. 授業実践③「器楽」 |
| 4. 学習指導要領解説②「内容:A.表現」 | 19. 授業参観・第Ⅱ期教育実習心構え |
| 5. 学習指導要領解説③「内容:B.鑑賞」 | 20. 授業実践④「創作」 |
| 6. 学習指導要領解説④
「指導計画作成と内容の取扱い」 | 21. 授業実践⑤「鑑賞」
「表現と鑑賞の関連」 |
| 7. 学習指導要領解説⑤「共通事項」 | 22. (教育実習)個人指導:教材研究① |
| 8. 教育課程の定義 | 23. (教育実習)個人指導:教材研究② |
| 9. 指導計画①「年間指導計画」 | 24. (教育実習)個人指導:教材研究③ |
| 10. 指導計画②「学習指導案作成法1」 | 25. 日本の伝統音楽 |
| 11. 指導計画③「学習指導案作成法2」 | 26. 諸外国の音楽 |
| 12. 評価①「教育評価概論」 | 27. ポピュラー音楽 |
| 13. 評価②「観点」 | 28. 校種間・他教科・特別活動との連携 |
| 14. 評価③「方法」 | 29. 特色ある音楽教育法 |
| 15. 前半まとめ・第Ⅰ期教育実習心構え | 30. 総まとめ |

V 使用テキスト・教材等

「中等科音楽教育法(中等科音楽教育研究会・音楽之友社)」「音楽のおくりもの 中学音楽1、2・3(上下)、中学器楽(教育出版)」「中学生の音楽1、2・3(上下)、中学生の器楽(教育芸術社)」

「音楽教育の実践(教育芸術社)」「中学校学習指導要領解説・音楽編(文部科学省・教育芸術社)」

VI 参考書・参考資料

クラス内で指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験		小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他
	配点比率(%)	合計 100				
授業実践					○	
授業案の書き方の理解				○		
指導要領の理解	○					
教職の心得			○			

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

初回授業時に説明。提出物に関しては、厳しく臨む。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

ピアノの弾き歌いができることが必須条件となるため、各自練習を怠らないこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
道徳教育	2		日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、道徳教育が「道徳の時間の指導」を要として、全教育活動で行うことが求められていることを理解し、中学校における道徳教育の指導法を身につける。

II 授業の到達目標

1. 道徳教育が豊かな心の育成の中心的な役割を担っていることを理解できる。
2. 「道徳の時間の指導」の授業の基本形を理解できる。
3. 全教育活動の中で行う道徳教育の具体を理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種を取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 「道徳の時間」の特設の趣旨	学習指導要領
2. 道徳性の発達	人間の道徳性 しつけと文化
3. 値値付けの社会的背景	価値とは何か 価値の問題
4. 道徳的価値と規範意識	規範とは何か 規範意識の比較
5. 道徳性の発達と役割葛藤	役割葛藤とは何か
6. 家庭教育における道徳教育①	家庭教育と生活規範
7. 家庭教育における道徳教育②	家庭に期待される道徳教育
8. 中学校の道徳教育①	道徳の授業の質
9. 中学校の道徳教育②-1	道徳資料の問題点
10. 中学校の道徳教育②-2	道徳資料の問題点
11. 中学校の道徳教育③-1	道徳的判断力の育成
12. 中学校の道徳教育③-2	道徳的実践力の育成
13. 中学校の道徳教育④	道徳の授業の具体例「いじめ」
14. 「道徳の時間」の内容と方法①	内容に小学校と中学校の違い
15. 「道徳の時間」の内容と方法②	方法に基本形（導入、展開、終末）

V 使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100		60	20		20	
道徳教育のねらいの理解	○	○		○		
「道徳の時間」の授業の基本形の理解	○	○		○		
全教育活動で行う意義の理解	○	○		○		

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
特別活動	2		日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、特別活動が学級・学校生活への適応や好ましい人間関係の形成を目指した教育活動であることを理解し、中学校における特別活動の指導法を身につける。

II 授業の到達目標

1. 学級・学校生活への適応のためにガイダンスの機能の大切さを理解できる。
2. 好ましい人間関係を築く力を育成する体験活動の大切さを理解できる。
3. 学級活動、生徒指導、学校行事のねらいを理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種を取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 特別活動の教育的な意義	特別活動全体のねらい
2. 特別活動の内容とねらい	学級活動 生徒会活動 学校行事
3. 学級活動①	学級活動の内容と特徴
4. 学級活動②	学級活動の具体例
5. 生徒会活動①	生徒会活動の内容と特徴
6. 生徒会活動②	生徒会活動の具体例
7. 学校行事①	学校行事の内容と特徴
8. 学校行事②	学校行事の具体例
9. キャリア教育	職業体験学習
10. 指導計画の作成に当たっての配慮事項	ガイダンスの機能 年間指導計画
11. 内容の取扱いについての配慮事項①	学級活動について
12. 内容の取扱いについての配慮事項②	生徒会活動について
13. 内容の取扱いについての配慮事項③	学校行事について
14. 国旗及び国歌の取扱い	入学式や卒業式などでの取扱い
15. 特別活動の評価	指導要録への記入等

V 使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト・ レポート	成果発表・ 作品	出席状況・ 授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
特別活動の意義やねらいの理解	○	○		○	
各活動の内容やねらいの理解	○	○		○	
改善の具体的な事項の背景の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育方法論		1	日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、教育方法や教育評価について学び、学習指導の充実のためにP D C Aサイクルに取り組む学校の教育方法の基礎知識を身につける。

II 授業の到達目標

1. 教育課程の編成に基づき授業が意図的・計画的に行われていることを理解できる。
2. 教育方法や教育技術についての意図や工夫を理解できる。
3. P計画、D実施、C点検、A改善により、教育課程は進化していることを理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者となるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種を取得するための選択科目である。

項目	内容
1. 教育方法史①	ルソー、ペスタロッチ、ヘルバートの教授法
2. 教育方法史②	科学技術教育の現代化
3. カリキュラム論①	編成の原理
4. カリキュラム論②	子どもの発達段階と教育
5. カリキュラム論③	教科書で教える学習内容
6. 授業論①	学習指導案の意義と作成手順
7. 授業論②	体験的な学習、問題解決的な学習
8. 授業論③	発問の種類と機能
9. 授業論④	集団学習の方法
10. 教育の技術①	個別化と個性化
11. 教育の技術②	教育メディアの活用法
12. 教育の技術③	板書、机間指導
13. 教育の技術④	模擬授業と授業記録
14. 学力と評価①	指導と評価の一体化
15. 学力と評価②	絶対評価と相対評価 学校評価と教育評価

V 使用テキスト・教材等

教育の方法と技術（教育学のポイント・シリーズ） 柴田義松 山崎準二編 学文社

その他プリントは講義中配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

学習項目	成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100	60	20		20		
意図的・計画的な教育課程の理解	○	○		○		
授業の創意工夫のポイントの理解	○	○		○		
評価の方法や意義の理解	○	○		○		

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
生徒指導	2		日英音	1	小長井邦男

I 主題

この授業では、生徒指導の理論と実際を理解し、教師としての生徒指導の方法や心構えを身につける。

II 授業の到達目標

1. 生徒指導のねらいの中心である自己指導力について理解できる。
2. 生徒への対応の基本であるカウンセリングマインドについて理解できる。
3. 積極的な生徒指導の意味や具体を理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像から、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種を取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 生徒指導の意義と役割	自己指導力の育成
2. 適応と発達①	適応と不適応
3. 適応と発達②	発達段階 思春期・青年期の発達
4. 生徒理解の方法	生徒理解の原理と方法
5. 学校の生徒指導	積極的な生徒指導
6. 懲戒と体罰	懲戒の概念 体罰の概念
7. 問題行動	判断基準と分類
8. 問題行動への対応	要因と事態の把握
9. 児童虐待への対応①	定義と発見・通告
10. 児童虐待への対応②	身体的虐待、ネグレクトの実際
11. 児童虐待への対応③	先進国の取り組みから学ぶ
12. いじめへの対応	いじめの定義と対策
13. 不登校への対応	不登校の定義と対策
14. 不満の爆発 家出と暴力行為	要因と対策
15. 「生徒指導」のまとめ	人権意識の育成

V 使用テキスト・教材等

新生徒指導論12講 編著 楠本恭久 藤田主一 福村出版株式会社

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	成績評価方法				
	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
自己指導力の意味や意義の理解	○	○		○	
生徒指導の方法の理解	○	○		○	
様々な問題行動の背景の理解	○	○		○	
学校の組織的対応の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育相談	2		日英音	2	金子泰之

I 主題

教育相談の役割とカウンセリングの理論・方法を獲得する

II 授業の到達目標

1. 教育現場における教育相談の役割を理解する。
2. カウンセリングに関する理論や技法の概要を実習から理解する
3. 学校現場の問題をカウンセリングの理論や技法をもとに考えられるようになる

III 授業の概要

教育相談に関する理解を深め、実習からカウンセリングの基礎を学ぶ。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 教育相談とは	教育相談の役割と意義を学ぶ
2. カウンセリングと自己（1）	相談をロールプレイから体験する
3. カウンセリングと自己（2）	専門職に相談する意義を学ぶ
4. 倾聴（1）	傾聴に関する実習
5. 倾聴（2）	傾聴と話のうながし方を学ぶ
6. 言語と非言語のメッセージ（1）	言語と非言語の違いに関する実習
7. 言語と非言語のメッセージ（2）	非言語のメッセージの役割を学ぶ
8. 教育相談における信頼関係（1）	信頼関係の重要性に関する実習
9. 教育相談における信頼関係（2）	信頼関係の築き方を学ぶ
10. カウンセリングと主訴（1）	主訴を引き出すことに関する実習
11. カウンセリングと主訴（2）	主訴を引き出す方法と重要性を学ぶ
12. 問題解決（1）	問題の見方と解決方法に関する実習
13. 問題解決（2）	様々なカウンセリング技法を学ぶ
14. 校内での連携	校内での連携方法に関する実習
15. 関係機関との連携	外部機関との連携方法を学ぶ

V 使用テキスト・教材等

授業中に資料を配布する。

VI 参考書・参考資料

必要に応じて授業中に参考書を案内する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他（ ）
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	30	10	30	30	
教育相談に関する知識の理解	○	○			
カウンセリングに関する技法の習得			○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

教育に関する記事やニュースに目を通しておくこと

前回の授業で配布した資料を読み返し、復習しておくこと

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

実習には意欲的に参加すること。意見を求められたら積極的に発言すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育実習	(5)		日英音	1・2	教務委員会各科教職担当教員

I 主題

この実習授業では、中学校教諭（1種及ぶ2種）免許状を取得するため、教員としての指導法を学校現場で学び、教員志望の意志を強固なものにする。

II 授業の到達目標

1. 学習指導の基礎を身につけることができる。
2. 生徒指導の基礎を身につけることができる。
3. 教員志望の意志を強固なものにすることができます。

III 授業の概要

母校などの中学校で実習をとおして、指導者となるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

中学校教諭免許状取得の教育実習は、関係の法律に従い次のように行う。

項目	内 容
1. I期教育実習事前指導 ① 教職過程説明会 ② 教育実習事前講義・個別指導	1年次 4月 1年次 11月～1月
2. I期教育実習（観察・参加実習）2週間	1年次 2月
3. I期教育実習事後指導	1年次 3月
4. II期教育実習事前指導・個別指導	2年次 4月～5月
5. II期教育実習（母校での実習）2週間	2年次 5月～6月
6. II期教育実習事後指導 反省会、反省記録の作成	2年次 6月下旬
7. 介護等体験実習事前指導	2年次 7月上旬
8. 介護等体験実習	2年次 8月～9月
9. 介護等体験実習事後指導	2年次 10月上旬

V 使用テキスト・教材等

実習校が指定する教科書など

VI 参考書・参考資料

教職に関する科目の授業記録や配付された資料など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他(実習)
学習項目 配点比率(%) 合計 100				20	80
I期教育実習				○	○
II期教育実習				○	○
介護等体験実習				○	○

* 実習校からの評価、実習記録、事前事後指導の出席状況などから総合的に評価する。

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞やインターネットで「学校教育」に関する記事に目を通し、教育現場における諸問題に常に敏感でいること。また、常に教材研究を怠らないこと。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

事前事後指導等に無断で欠席した場合には、教職課程を辞退したとみなすので注意すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教職実践演習 (中学校)	[2]		日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、2回の教育実習での成果や課題を整理し、さらに解明したい問題を出し合い、実践的な演習を通して教師に必要とされる資質をいっそう高める。

II 授業の到達目標

1. 学習指導、生徒指導、道徳指導などの課題を見つけることができる。
2. 課題解決のために、共に考えを出し合うことができる。
3. 学校の使命や教師の使命が具体的に分かることができる。

III 授業の概要

教育実習での成果や課題から、新たな問題を見出し、それらについて自分の考えを出し合い、協議し、指導者としての資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校2種を取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 教育実習から学ぶ	教育行政、中学校経験者の講義
2. 学習指導に関する報告と協議	指導案と教材研究
3. 生徒指導に関する報告と協議	積極的な生徒指導 問題行動
4. 特別活動指導に関する報告と協議	特別活動の教育的意義
5. 道徳指導に関する報告と協議	指導の基本型 道徳的実践力
6. 学校と教師に関する報告と協議	学力低下への教師の取り組み
7. 事例研究「不登校への対応」①	問題把握（関係図）
8. 事例研究「不登校への対応」②	自立支援教育機関との連携
9. 事例研究「いじめへの対応」①	問題把握（関係図）
10. 事例研究「いじめへの対応」②	人権意識の日常的指導
11. 事例研究「非行への対応」①	問題把握（関係図）
12. 事例研究「非行への対応」②	チームで対応 教職員の同僚性
13. 共同研究・模擬授業①	道徳または学級活動の指導案作成
14. 共同研究・模擬授業②	道徳または学級活動の指導案作成
15. 共同研究・模擬授業③	模擬授業の実践

V 使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	出席状況・授業態度	その他()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
問題行動への対応ポイントの理解	○	○		○	
指導案の重要ポイントの理解	○	○		○	
学校現場の取り組みの理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。